

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

静岡県 小山町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)	
-	84.22	98.03	1,130	

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
18,922	135.74	139.40
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
18,444	26.56	694.43

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成29年度全国平均

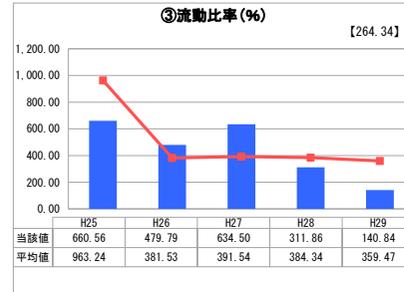
## 1. 経営の健全性・効率性



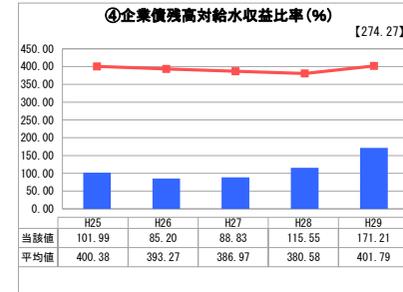
「経常損益」



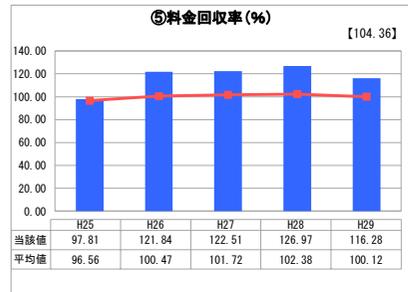
「累積欠損」



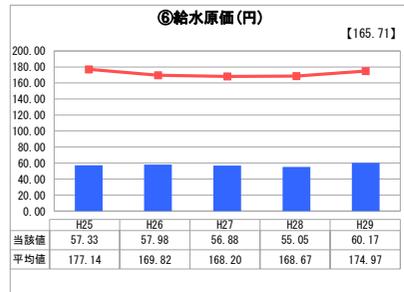
「支払能力」



「債務残高」



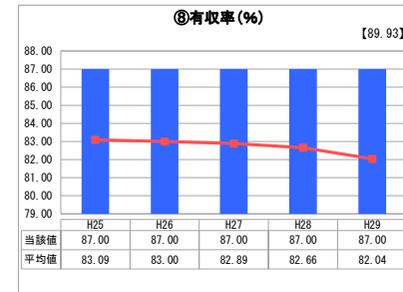
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

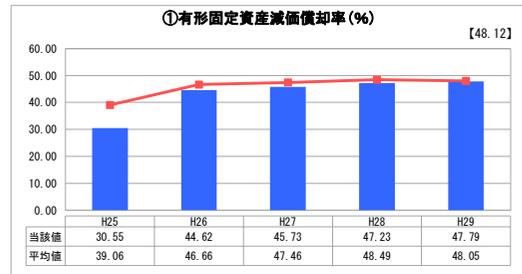


「施設の効率性」

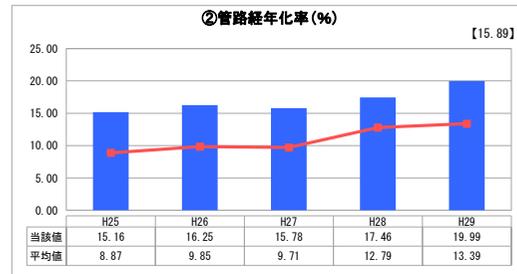


「供給した配水量の効率性」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本町水道事業は綺麗な湧水及び井戸水に恵まれ、浄水施設の必要もないことから、⑥給水原価が類似団体平均の3分の1程度となっています。また平成26年度に水道料金の改定を行い、①経常収支比率及び⑤料金回収率が改善し、類似団体の平均も上回っています。しかし今後の見込みとして、平成28年度から築造している工業団地の新しい配水施設の維持管理費、減価償却費等の経常経費の増加により⑥給水原価の上昇、①経常収支比率・⑤料金回収率の悪化が予想されます。

また、当該施設築造にあたり、自己資金及び企業債で多くの経費を賅っているため、平成29年度決算で③流動比率及び④企業債残高対給水収益比率が悪化しました。今後は老朽管の布設替えや耐震化等の対策に多くの投資的経費が掛かることや、人口減少による水需要の減少が予想されます。したがって、施設の統廃合や性能の合理化を検討し効率的かつ安全に水を供給していきます。

### 2. 老朽化の状況について

類似団体平均及び全国平均と比べ、②管路経年化率が高くなっています。現在アセットマネジメント計画を策定し、現有資産の更新需要と長期的な財政状況を基に施設整備（老朽管更新や耐震化）を計画的に行っていきます。

## 全体総括

上記のとおり、資産の老朽化、施設機能の適正化や水需要の減少といった課題はあります。本町水道事業としては、安定的に事業を継続していくことを主眼に事業運営をしていきます。そのために、経常経費の見直し・補助金や適正な料金収入等財源の確保といった財政的試算と、ダウンサイジング・スペックダウンや計画的な施設整備といった投資的試算のバランスを図っていきます。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。